

スパイロメトリー検査

●スパイロメトリー

肺活量（大きく息を吸い、限界まで吐き出した空気量）を測定する検査と、努力性肺活量（限界まで吸い切ったところから勢いよく吐き出した空気量）を測定する検査があります。

所要時間：約 10～15 分



イメージ図

●気管支可逆性検査（起動可逆性検査）

気管支拡張剤の吸入前後のスパイロメトリー検査結果を比較し、その有効性を判定する検査です。

※普段使用している気管支拡張剤を依頼医から中止するよう説明があった場合は、予約時に渡される可逆性検査前に中止していただく薬剤の表の注意点に従い、可能な限り服用を中止してください。

※中止指示があった気管支拡張剤を内服及び吸入した場合は検査の前に申し出てください。

所要時間：約 30 分（薬吸入後の休憩 15 分を含める）

●呼気ガス分析

吐いた息に含まれる一酸化窒素（NO）の濃度を測定して気道の炎症状態を評価する検査です。

所要時間：約 5～10 分

肺機能多項目検査（機能的残気量、肺拡散能、クロージングボリューム）

● 機能的残気量

息を最大限に吐き出した状態で、まだ肺内に残っている空気量を調べる検査です。

● 肺拡散能

肺でのガス交換は、肺胞と呼ばれる小さな袋状の組織で行われています。肺胞でのガ

ス交換がどれだけ効率的に行われているか（酸素を効率良く取り込んでいるか）を調べる検査です。

- クロージングボリューム

通常は検出しにくい末梢気道の閉塞を調べる検査です。

所要時間：約 50～60 分（項目数により所要時間が変動します。）

終夜睡眠ポリグラフィー検査 ※ 呼吸器・アレルギー内科限定予約

各種センサーを装着し、睡眠中の呼吸の状態を調べる検査です。外来で行う簡易検査と、入院で行う精密検査があります。

- 簡易検査

検査予約日に検査機器の操作方法を説明します。検査機器を持ち帰りご自身で装着していただき、2 晩測定を行います。

※検査予約日から 2 日後 10 時までの機器返却のために来院していただく必要があります。（例：5 月 1 日予約→5 月 3 日 10 時までの返却）

- 精密検査

入院して検査をします。睡眠中に呼吸が停止（睡眠時無呼吸）していないかを多数のセンサーを装着して調べる検査です。夜 19 時に検査担当者が装置を装着し、翌朝 8 時に回収します。

所要時間：簡易→約 20 分、精密→1 泊 2 日